

英語多読授業における電子、紙媒体教材利用の事例

吉野美智子

神戸海星女子学院大学には2021年現在、1、2年生の間は英語必修教科として、Oral Communication, Reading, Writing, Grammarを履修する。授業は習熟度別で行われている。2020年から、Readingの1つのクラスで英語多読教材のみを用いた授業が行われ、2021年入学生からは同じクラスのWritingも英語多読を用いた授業を行なっている。

海星女子学院大学図書館には現在多様な英語多読図書が所蔵されている。それぞれ所蔵冊数の違いがあるが、所蔵されているシリーズは以下のものがある：Oxford Reading Tree, Oxford Bookworms, Scholastic Reader, Foundation Reading Library, Literacy Land: Story Street, Primary Classic Readers, Penguin/ Pearson Readers, Cambridge English Readers, Bestseller Readers, Macmillan Readers. これらを手軽に手に取り、授業内そして貸出により授業外で利用するため、2021年から筆者は図書館内にある講義室で授業を行なっている。

多読授業初年の2020年は、対象クラスが初級英語であり、学生が英語への苦手意識を取り除き、英語で読むという行為に慣れるため、英語の易しさと共に内容の設定が容易に入りやすいものとして、当初の予定では図書館所蔵のOxford Reading Treeシリーズに限定していた。日本の学校教育で使用されている平均的教科書の単語は中高の6年間で約3万語、副読本、問題集を合わせても5万語程度である¹。英語多読ではそれ以上の量の単語に一年間で触れることになる。多読指導により5-6万語で英文を読むのに慣れ、10万語ぐらいから成績が伸び始めると考えられる（高瀬28）。授業では手に取り易いOxford Reading Treeシリーズの中からStep 1-6（YS 0.0-0.7程度²）、合計142冊、29956 words（読み進めた学生はそれ以上のレベル、Step 7-9（合計34冊、38698 words）に進むことを薦める）まで春学期に読書し、秋学期に別の出版社のシリーズへと進む予定であった。

しかし、開始年である2020年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行が発生し、日本では4月7日に緊急事態宣言が発出され、神戸海星女子学院大学では授業は5月から、オンラインでの実施となったため、図書館に所蔵されている多読図書が使用できない事態となった。図書館は郵送での貸し出しサービスを提供していたが、多読に必須である、頻繁な貸し出し、返却は時間、費用の面から現実的ではなかった。そのため、使用予定であったOxford Reading Treeシリーズを含む児童用電子書籍を無料で提供している、Oxford Owl for School and Homeの使用に変えることとした。Oxford Owl for School では大きく3つの種類の本が提供されている。Oxford Reading Treeシリーズ（70冊）、その延長であるTree Topシリーズ（25冊）、そしてProject Xシリーズ（38冊）³が提供されている。Oxford Reading Treeシリーズについては、神戸海星女子学院大学図書館ではKipper

¹ 高瀬敦子、『英語多読・多読指導マニュアル』,大修館書店,2010年,27頁。

² SSS英語学習法研究会が実際に多読をしている人々の声を集約して設定した、本の読みやすさを評価する基準。読みやすさレベル（略称YL）。「日本人にとっての本の読みやすさ」をYL0.0-10.0で表している。古川昭夫、神田みなみ編、『英語多読完全ブックガイド』,コスモピア,2010年,10-12頁。またStep 0も所蔵しているが、こちらはほぼ絵のみであるため、除外した。

³ Oxford Owl. (<https://www.oxfordowl.co.uk/>), 2021年10月26日時点。

familyが登場するものみの所蔵だが、Oxford Owlではノンフィクションを扱うIn Fact、童話を揃えたTraditional Talesが加わっている。冊数自体は図書館所蔵に及ばないが、難易度等を考え、十分代替できると考え、授業で用いることにした。

この授業では教科書を用いず、アクティビティは毎回、読んだ本について行われるため、図書館（オンライン授業ではOxford Owl）から自分のレベルに合った本を自分で選び読みすすめることが必須になる。多読が目的であるため、アクティビティで使用できる本は毎回異なるものを使用すること求めている。授業では主にExtensive Reading Activities for Teaching Language⁴で紹介されている課題を中心に取り組んだ。Oxford Reading Treeシリーズは全員が数冊は必ず読んでいるため、クラス全員が登場人物を知っているため、登場人物を当てる“Guess Who?”(Bamford and Day 126)、登場人物に贈るプレゼントを考える“Gifts”（同 156、画像1）を授業で実施した。

The name of the charcter: Kipper
The present: dolls
The reason: He likes dolls and has parties with dolls, so I want to give him various dolls.

The name of the charcter: Floppy
The present: clothes
The reason: I like dogs wearing clothes. But I've never seen floppy wearing clothes before.

（画像1: 学生が提出した“Gifts”の課題）

実施場所が図書館であれば、学生は図書館内での読書、また貸し出し手続きへと進むことが容易である。Oxford Owlの場合は読書開始の前に、登録手続きが各自で必要である⁵。そのため、授業開始前から学生に登録までの手続きの手順を連絡し、ebookを開くまでの確認をするよう指導した。初回授業では一学期の英語力の変化を見るためにその時点での英語力を測るテストを実施し、その後、Oxford Owlが使用できているかの確認を行った。

この多読授業では各自で授業内外での読書を必須としている。読書を促すためにも、目標冊数または目標語数を設定したうえで、成績配分では30%を充てている。その評価は読書記録として、読書を終えるごとに記入するBook Reportでの達成具合で行っている。オンライン授業では紙媒体でのBook Reportの配布は難しいことと、大学がGoogle classroomを導入したことで、授業のclassroomを通して、ファイルでの配布が可能となったので、ファイル形式でのBook Reportの導入を行った。当初、図書館蔵書を対象としていたため、蔵書されている全てのOxford Reading Treeシリーズから、Step 0を除いたものをレベル毎に分け、全タイトルを記載したものをBook Reportとして作成していた（画像2）。学生は一冊毎に読書した本から気に入った英文を一文書き出し、あらすじを短く日本語で書くことが求められる。

しかし、Oxford Owlでは裏表紙に記載されている難易度レベル（Step 0～11）が、サイトで分けられているレベル（Oxford levelでは1～20）と合致しなかったため、レベル毎、タイトル記載のBook Reportをやめ、記載内容は同じだが、タイトル名とサイトで分けられているレベルをさら

⁴ Bamford, Julian and Richard R. Day, Extensive Reading Activities for Teaching Language. Cambridge University Press, 2004.

⁵ Oxford OwlにはOxford Owl for SchoolとOxford Owl for Homeがあるが、今回はOxford Owl for Homeのみに使用したため、教師による読書管理等はできなかった。

に記入する形に変更した（画像3、4）。その際、複数のシリーズがあるため、Book Reportのヘッダーに表示して、区分けがし易いようにした。

Book Report	
日付	タイトル
	気に入った一文(英語)
	簡単なあらすじ(日本語)
1	House for Sale
2	The New House
3	Come in!
4	The Secret Room
5	The Play
6	The Storm

(画像2: これはStep 4のもの)

Book Report				
日付	シリーズ	レベル	タイトル	
			気に入った一文(英語)	
			簡単なあらすじ(日本語)	
Explore with Biff, Chip and Kipper: E, My First Milestones: M, Oxford Reading Tree: O, Oxford Reading Tree inFact: OR, Project X: P1, Project X CODE: P2, Project X Hero Academy: P3, Project X Origins: P4, Project X Origins Graphic Texts: P5, Project X Phonics: P6, Read Write Inc.: R, Read with Oxford: RO, Story Sparks: S, Songbirds Phonics: SP, Traditional Tales: T, Tree Tops: TT, Winnie the Witch: W				
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

(画像3)

Book Report

日付	シリーズ	レベル	タイトル
気に入った一文(英語)			
簡単なあらすじ(日本語)			
Explore with Biff, Chip and Kipper: E, My First Milestones: M, Oxford Reading Tree: O, Oxford Reading Tree inFact: OR, Project X: P1, Project X CODE: P2, Project X Hero Academy: P3, Project X Origins: P4, Project X Origins Graphic Texts: P5, Project X Phonics: P6, Read Write Inc.: R, Read with Oxford: RO, Story Sparks: S, Songbirds Phonics: SP, Traditional Tales: T, Tree Tops: TT, Winnie the Witch: W			
1	#####	O	2 Jack Floppy ran at the chicken. keeperがニワトリを見つけて、檻に入れた。BiffとChipと一緒に倒をあげていた。6時に鳴き出してみんな起きてしまい、みんなで静かにとまった。
2	#####	P1	2 Peco's Pet Can I have that as a pet? Pecoは動物園に行って、ペットを見つけれたいと言った？トラやヘビ、ウサギなど次々に言っていくが、ママはダメと言った。
3	#####	P1	2 Tigers fish Then he swims with the fish. TigerとNokは魚ショップに行った。Nokが水槽に入って泳いでいると貝に足を挟まれTigerに助けを求めた。そこで気に入った魚を見つけた。
4	#####	P1	2 Alien Adventures Can you help me tidy up? Max,Cat,Ant,TigerたちでNokと一緒にロケットをつくりたりする。
5	#####	P1	2 Nok Can Fix It Max stops the Vac. ママに部屋を掃除しなさいと言われ、Vacでゴミを吸っていたら、Nokが吸われてしまい、Maxが助けに行く。
6	#####	P1	2 Cat' s picnic The duck picks up Nok. ピクニックをしていたら、アヒルが来て、Nokを啜って泥に落としたり、抜けられなくなったNokをCatが助けに行く。

(画像4: 学生が提出したBook Report)

当初は図書館で実施する予定だったため、授業冒頭は読書の時間に充てる予定であったが、このオンライン授業ではe-booksを使用しているため、画面を見ていることを確認できても、読書をしているかの確認は不可能であった。そのため、オンライン授業では授業時間外での読書を必須とした。最も読書冊数が多かった学生で104冊、最も少なかった学生は30冊読み⁶、平均では64冊であった。授業では定期的に多読をすることの意義とともに、Book Reportの点数配分について通知をしていたが、冊数の違いが大きすぎる結果になった。また難易度についても明記するように指導はしたが、本のレベルを記載しない学生の方が多くなってしまった。そのため、全面対面授業になり、図書館蔵書の多読教材が使用可能になった2020年秋学期では、改めて所蔵されているOxford Reading Treeシリーズ対象とし、各レベルごとに作成した、画像1の形式のBook Reportを用いた。春学期に英語多読教材での読書、学習を経験していることから、図書館所蔵のシリーズからStep 2からBook Reportを開始した。自発的に読み進める学生もいるが、締め切りを設定することで、日常的に読書を進めるように誘導することが考えられたため、レベル毎に締切を設定した。先に読み進む学生がいるので、常に締め切り対象のレベルと、その一つ上のレベルのBook ReportをGoogle classroomに掲示した。締め切り時点で各学生に何冊を読み終えているのかを通知し、読み進める必要があることを意識してもらうようにした。その結果は以下ようになった(画像5)。最も読書冊数が多かった学生で168冊、最も少なかった学生は64冊であった⁷。平均では109冊と春学期と比べて大幅に増えた結果となった。春学期を終えて、英語の多読に慣れたことに加えて、授業冒頭に読書時間をとったため、継続読書の習慣が付きやすくなったことも考えられるだろう。

⁶ 注6での、読書はしているが記録を出さない学生の冊数は本論では除外している。

⁷ Bの学生はStep 4のBook Reportで虚構の内容を記述していることが判明したため、それ以前の読書記録は評価対象外とした。Jの学生は読書はある程度しており、本人もメモとして記録は取っていたようであるが、表に記載するのが間に合わず、またメモの画像を提出しなかったため、表のようにになっている。そのため、本論ではこの二名の記録は除外している。

Step	7	6	5	4	3	2	
蔵書冊数	10	18	36	36	18	18	合計
A		18	36	28		29	111
B			32				32
C	7	17	35		17	17	93
D	1	18	36	23	18	15	111
E		15	27	11	11	8	72
F	10	18	40	38	22	31	159
G	11	18	36	51	34	18	168
H			12	29	9	14	64
I	1	18	36	11	18	7	91
J				8	19		27

(画像5: A-Jの学生の各レベルの読書冊数⁸⁾)

今回は非常時の対応であったこと、英語多読授業の最初の学期であったことから、Oxford Owlはレベル、種類も授業に合致していた。ebookであるため、学生の読みたい本が重複し、順番待ちになるなどの事態はない。図書館の資料を用いた対面授業の場合、同一タイトルのものをクラス人数分用意しなければ、授業でその教材についての課題を課すことはできないが、ebookの場合は容易である。また音声が付属されているため、学生が個人で学習する際に再生し、物語の内容を音声で確認、単語等の発音矯正、抑揚の学習などに使用できるだろう。しかし、通年で使用する場合はOxford Owlはレベル、提供されている数が少ない。Oxford University Pressでは有料の英語多読教材のebookの提供があり、Bookworms, Dominoesなどのシリーズも加わり、レベル表記は紙媒体のものと同じであるため、記録は取りやすく、レベルも上位まで含まれるが、その結果、初級程度の学習者に十分な量の教材が提供されているとは言い難い。また提供されてるタイトルも定期的に変更されるため、教師側が把握しておく必要が生じるだろう。英語多読授業では教師による学生の読書管理が必須であることから、現時点では紙媒体による多読授業が容易であるといえるだろう。しかし、正しい発音、自然な抑揚などはebookの最大の利点の一つでもあるので、今後は紙媒体とebookの併用も望ましいといえるだろう。

⁸ A、G、Fの学生の読書数が図書館蔵書冊数より多いものになっているのは、春学期から継続してOxford Owlでの読書も並行したためである。